

第2章

緑の現況と課題

第2章 緑の現況と課題

2-1 郡山市の概要

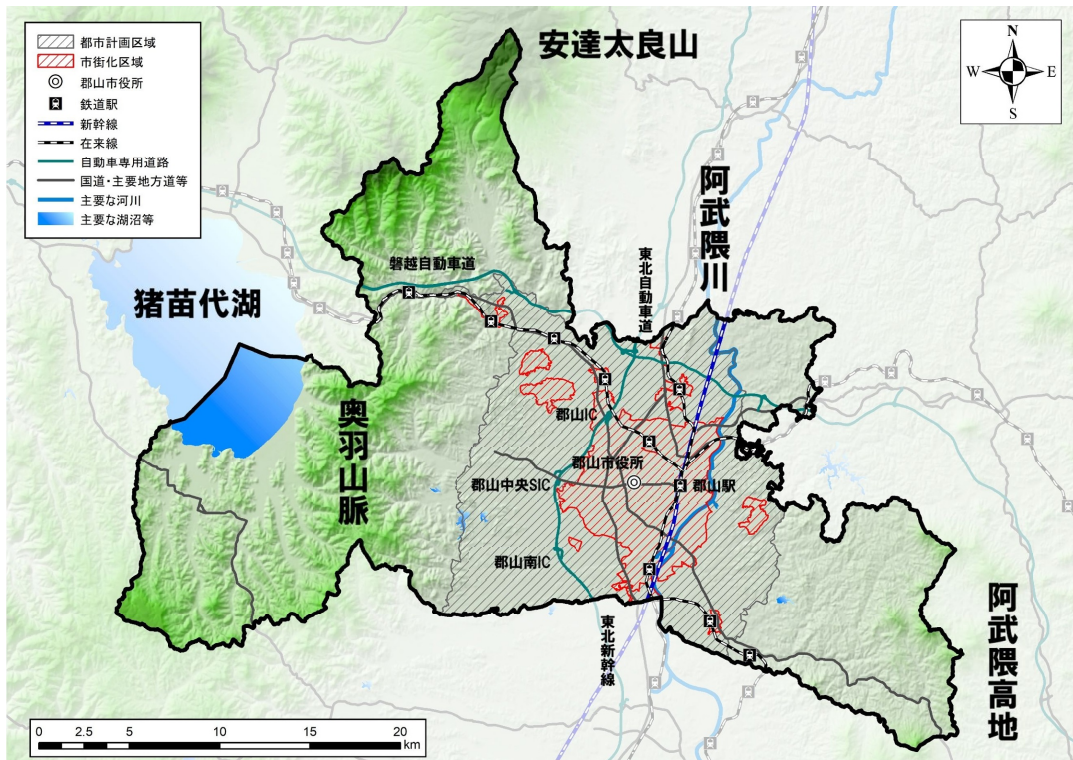
1. 位置・地勢

- 本市は福島県の中央部に位置し、東西に約47km、南北に約40km、面積は757.20km²で県下4番目の面積の都市です。
- 安積平野の平坦地を中心に市街地が形成され、中心部を南から北へ向けて阿武隈川が流れています。
- 周辺は、西に奥羽山脈、東に阿武隈高地が接しており、北は奥羽山脈の秀峰・安達太良山を望みます。また、西には全国の湖で4番目の大きさを誇り、天を映す鏡のような湖の意で「天鏡湖」と呼ばれる猪苗代湖があるなど、豊かな自然に囲まれています。
- 安積疏水*の開さく以前は水の確保が困難であったことから、市内には大小合わせて600以上ものため池があり、東北地方でもため池の多い都市となっています。

◆位置



◆地勢



2.沿革

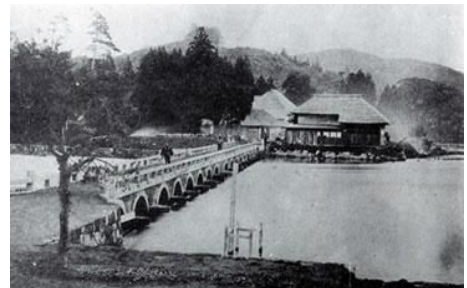
- 本市は、古くは徳川家康の命で整備された奥州街道の宿場町として繁栄していましたが、明治の初め、新しい日本の殖産興業が進められるなか、国策として進められた猪苗代湖から水を引く大事業「安積疏水*」及び全国各地から土族が移住してきた「国営安積開拓」によって大きく飛躍しました。
- 安積疏水*の開さくにより、不毛の地とされていた安積の地は、農業をはじめ疏水を利用した水力発電などの影響もあり、養蚕やタバコなどの産業や工業が発達し、都市化が進みました。
- 1924年（T13）には郡山町が小原田村と合併、全国で99番目に市制を施行し、さらなる発展を遂げていましたが、太平洋戦争中には空襲によって大きな打撃を受けました。
- 終戦後は、1964年（S39）に常磐・郡山地区新産業都市制度の指定があり、1965年（S40）には安積郡9村、田村郡3村と合併し、今日の郡山市が誕生しました。
- 以来、1975年（S50）の東北自動車道の開通をはじめ、1991年（H3）に東北新幹線の東京駅乗り入れ、1997年（H9）に磐越自動車道の全線開通など、国土の骨格を形成する交通インフラの整備が進みました。
- 鉄道と高速道路に加え、1993年（H5）には隣接都市での福島空港の開港もあり、ますます交通の要衝としての性格を強め、多様なルートで人やモノ、情報が行き交い交流できる「陸の港」となりました。

安積疏水全図



写真：安積疏水土地改良区HP

安積疏水開さく当時の十六橋水門



市役所本庁舎完成直後（1968年）



2. 沿革

- 1997年（H9）には東北地方で初めての中核市*となり、現在も圏域をけん引する経済県都となりました。
- その後、本格的な人口減少・少子高齢社会が到来するなかで、地域経済を持続可能なものとし、住民が安心して暮らしていけるよう、各市町村が連携し活力と魅力あふれる圏域づくりに取り組むことを目的として、2017年（H29）11月に本市を中心とする「こおりやま広域連携中枢都市圏連携推進協議会*」を設置しました。
- 当初は、本市を含む15市町村で協議を開始し、2018年（H30）の郡山市議会9月定例会において郡山市長が連携中枢都市宣言を行いました。宣言後の2019年（H31）1月には本市と14市町村で連携協約を締結し、同年3月に「こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン」を策定しました。さらに、2019年（R元）10月には二本松市とも連携協約を締結し、全16市町村で将来にわたって豊かな地域として持続していくことを目指した取組を進めています。
- また、この間、国際的には2015年（H27）9月にSDGs*が国連サミットで採択され、2019年（R元）7月に本市は県内で初めて「SDGs未来都市」に選定されました。本市では、「健康」をキーワードとして「経済」「社会」「環境」において、持続可能なまちづくりに向けた先導的取組を推進しています。

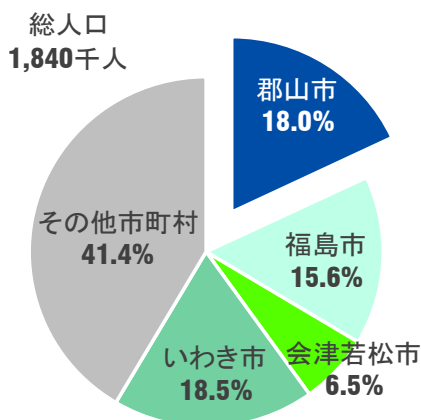
連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結



現在の郡山駅前



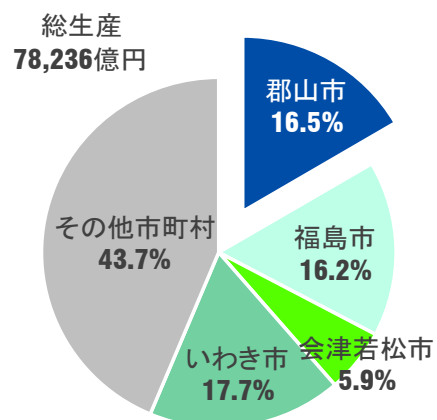
◆福島県内の人口割合



※ 2020年1月1日現在であり、2015年国勢調査確定値に基づく推計値である。

出典：福島県現住人口調査月報

◆福島県内の総生産額割合

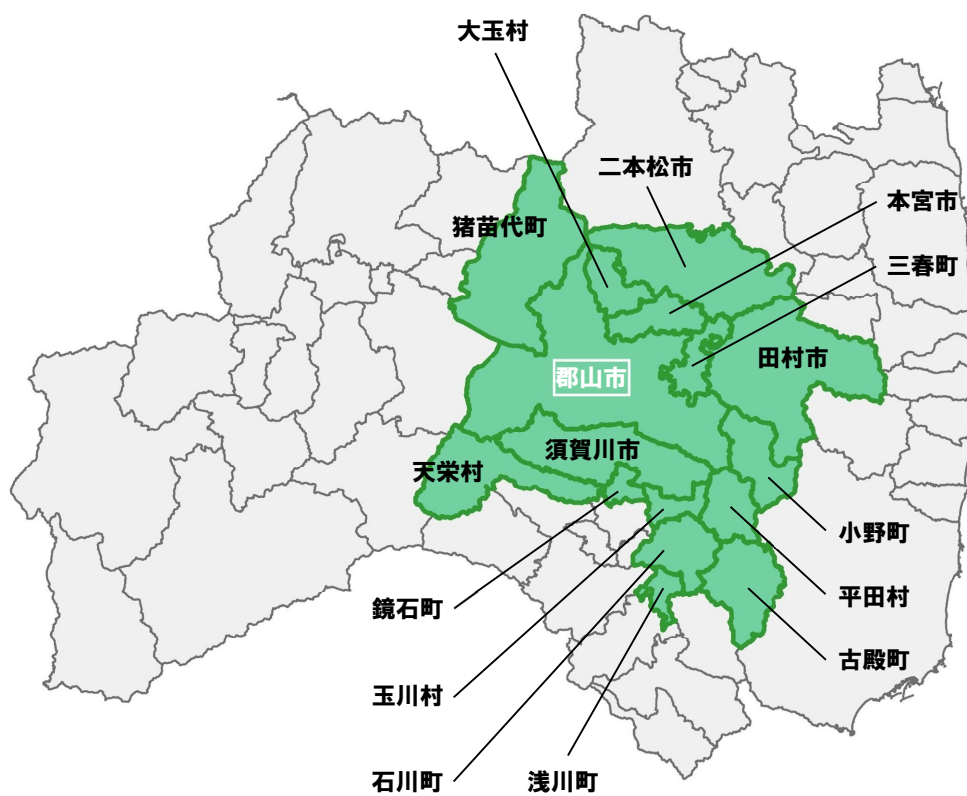


※ 2015年度の実績値。

出典：第133回福島県統計年鑑2019

2.沿革

◆こおりやま広域連携中枢都市圏の構成市町村



構成市町村…郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町の16市町村

須賀川市  翠ヶ丘公園桜 鏡石町	二本松市  安達ヶ原ふるさと村公園 天栄村	田村市  あぶくま洞ドリーネ 猪苗代町	本宮市  英国庭園 石川町	大玉村  フォレストパークあだたら 玉川村
 ふれあいの森公園 平田村	 二岐山 浅川町	 達沢不動滝 古殿町	 あさひ公園 三春町	 乙字ヶ滝 小野町
 ジュピアランドひらた	 城山公園	 町民憩いの森公園	 さくらの山	 高柴山

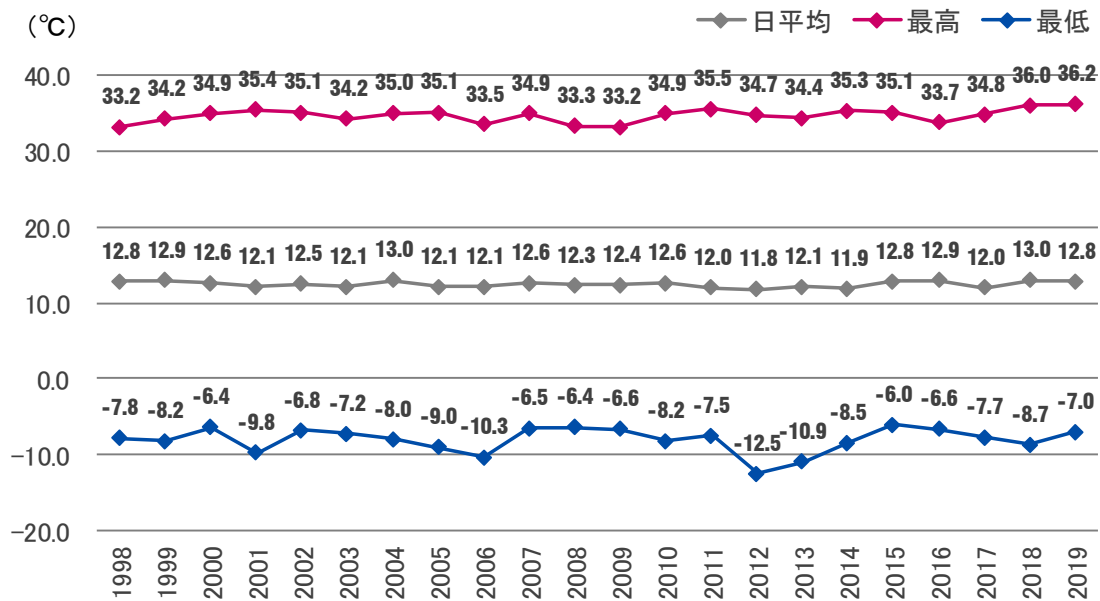
写真：各市町村

2-2 自然的条件

1. 気候

- 本市の年平均気温は12℃前後であり、東北地方では比較的温暖な地域です。
- 年降水量は1,000mm前後であり、全国平均（約1,700mm）より少なくなっています。日最大降水量は、直近で2011年（H23）と2019年（R元）に突出していますが、これはそれぞれ台風の影響を受けたものであり、年降水量の10%以上が一日で降ったことになります。集中豪雨や大型台風の多発は気候変動の影響を受けている可能性が指摘されており、近年は本市においても過去にみられなかった集中的な降雨が観測されています。
- 冬には西からの季節風「磐梯おろし」が吹きますが、降雪量は少なく、平野部において長期間残るような雪が降ることはほとんどありません。しかし、平野部と西部の湖南地域では気候が異なります。湖南地域は、会津地方の天候に左右される地域であり、豪雪地帯*に指定されています。

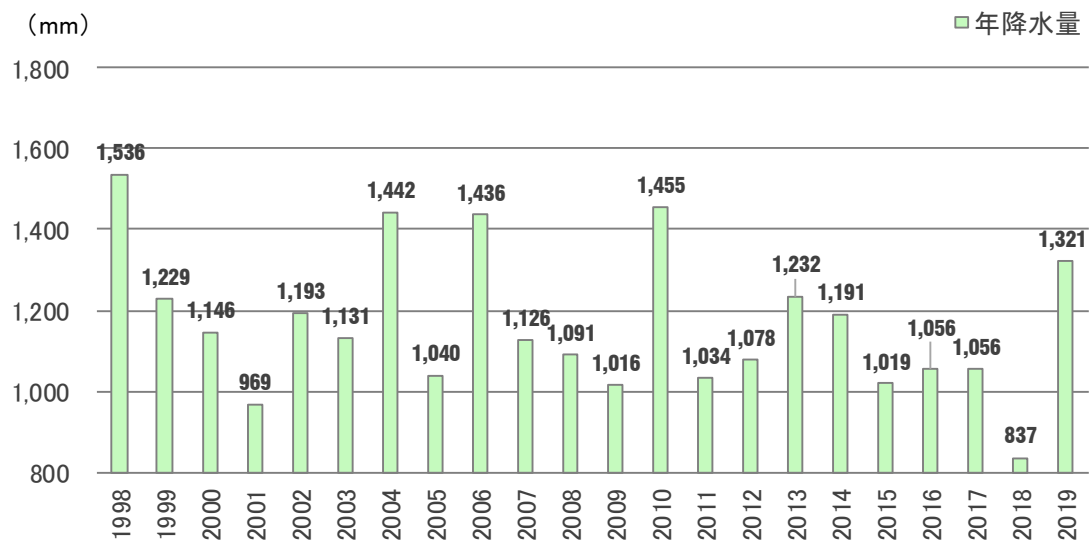
◆気温の推移



出典：気象庁

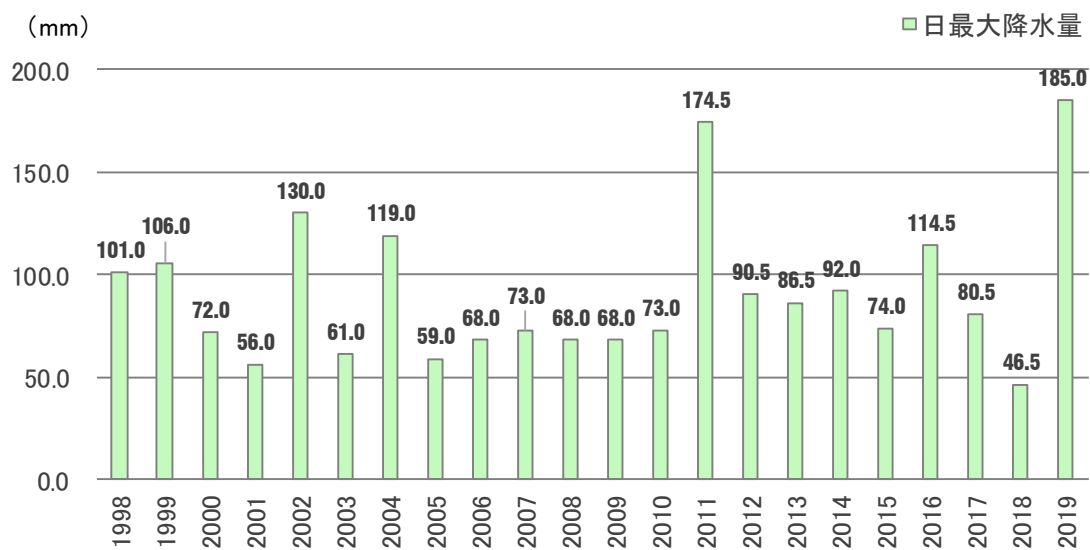
1. 気候

◆年降水量の推移



出典：気象庁

◆日最大降水量の推移

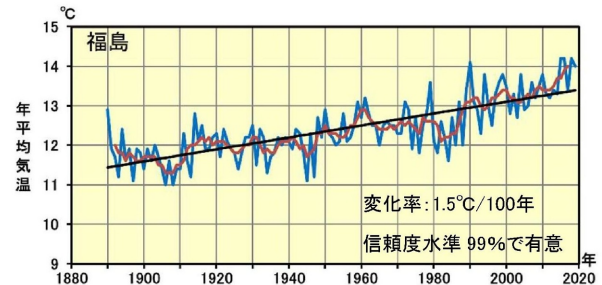


出典：気象庁

コラム 福島県における気候変動

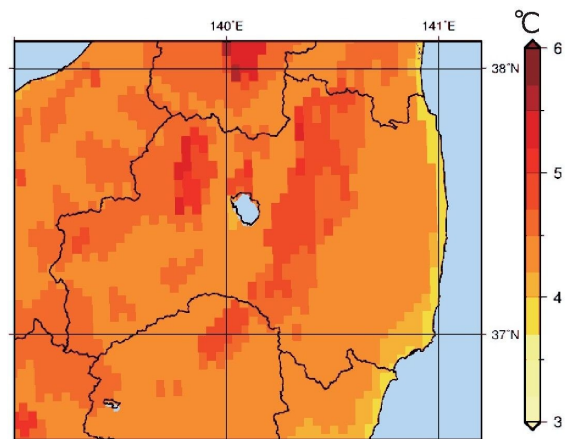
- 世界規模で深刻化する地球温暖化は、福島県でも同様の傾向がみられます。
- 福島地方気象台で観測した年平均気温の長期変化をみると、100年あたり1.5℃の割合で上昇しています。
- 同気象台が実施したシミュレーションでは、二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガス*の排出削減対策がほとんど進まず、地球温暖化が最も進行する場合、21世紀末における福島県の年平均気温は約4.5℃上昇すると予測されています。
- 真夏日が約44日増加、冬日が約63日増加し、さらに、30mm/hrの激しい雨の発生回数は約2倍となることが予測されています。生態系への影響をはじめ、産業活動や健康にも被害を及ぼすほか、自然災害の発生リスク増大も懸念されています。
- 森林は温室効果ガス*である二酸化炭素の吸収や貯蔵効果があり、地球温暖化の防止に大きく貢献しているほか、市街地の緑はヒートアイランド現象*の緩和に有効であるなど、持続可能な社会の形成、快適な都市環境の形成に向けては、緑の役割がますます重要になっています。

◆年平均気温の長期変化（福島地方気象台）



出典：東北地方の気候の変化（仙台管区気象台）

◆年平均気温の将来変化の分布

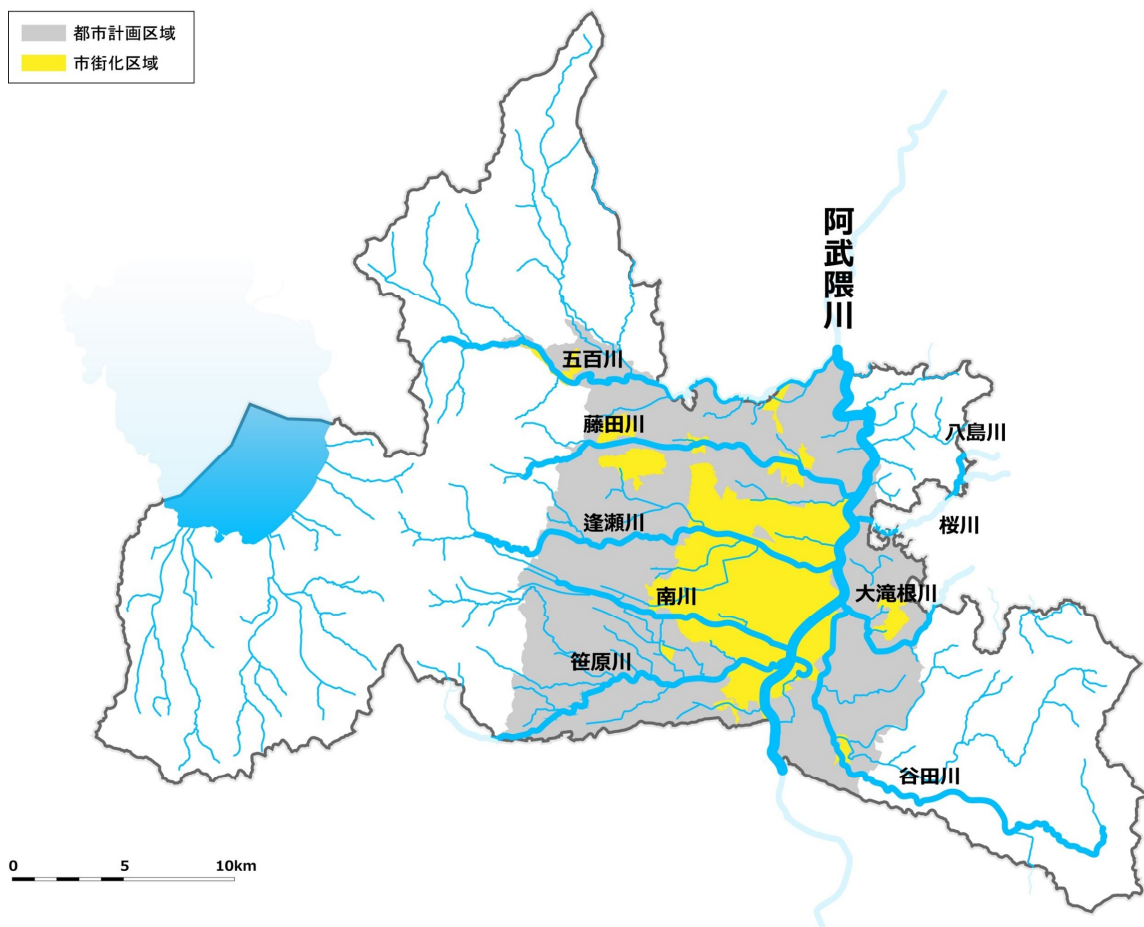


出典：福島県の21世紀末の気候（福島地方気象台）

2.水系

- 本市は、一級河川*の阿武隈川及び阿賀野川の2河川の水系からなり、市内には164河川、609kmが流れています。このうち、132河川、344kmは本市が管理者となっています。
- 阿武隈川については、水辺に親しむことを目的に整備された日出山水辺の小楽校*やサイクリングロードなどの施設が整備され、市民の憩いの場となっている一方で、たびたび水害にも見舞われており、令和元年東日本台風では阿武隈川及び支川の決壊や氾濫により市内1,400ha以上が浸水しました。

◆河川



水系	河川種別	管理者	河川数	延長(km)
阿武隈川水系	一級河川	国土交通省	3	24
	一級河川	福島県	23	198
	準用河川	郡山市	14	39
	普通河川	郡山市	90	226
阿賀野川水系	一級河川	福島県	6	43
	普通河川	郡山市	28	79
合計			164	609

出典：郡山市

3. 植生・動物相

- 平野部の都市計画区域内では、二次的自然としての水田が広がり、その外側にはコナラ群落やアカマツ群落広がっています。また、奥羽山脈では二次林であるカスミザクラ-コナラ群がまとまっています。また、隠津島神社（湖南町）周辺にはブナの原生林、磐梯熱海温泉街を流れる五百川沿いにはケヤキの原生林が広がっています。
- 市域の半数を山林や原野が占める自然豊かな本市では、東部森林公園や高篠山森林公園などでカモシカやリスなど、以下のような動物がみられます。

哺乳類…カモシカ、リス、ノウサギ、ニホンザル、イノシシ、アナグマ、タヌキ など

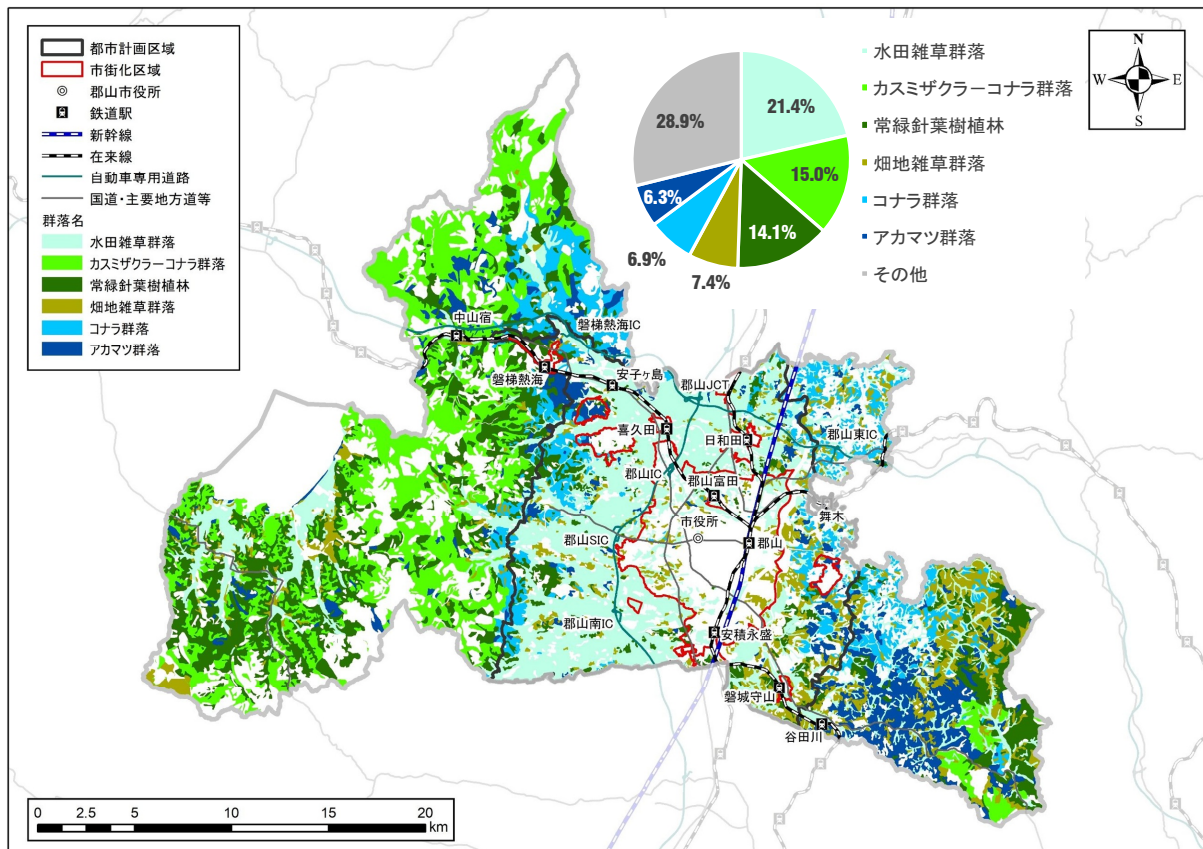
鳥 類…ゴイサギ、カワウ、マガモ、オオタカ、キジ、ヤマドリ、ウグイス、ホトトギス、カッコウ など

魚 類…ギンブナ、ニゴイ、メダカ、アユ、ヤマメ など

市の鳥 カッコウ



◆主な植生（植物群落）



出典：環境省自然環境局生物多様性センター「自然環境保全基礎調査」

4.特徴的な緑や景観、施設

【良好な地形・地質を有する土地】

- 本市は、奥羽山脈や阿武隈高地に連なる山々に囲まれた豊かな自然環境を有しており、多様な動植物の生息の場となっています。
- 本市を取り囲む奥羽山脈や阿武隈高地の山並みとして、西部には安達太良山や額取山、会津布引山（布引高原）など、東部には宇津峰山や蓬田岳などを望みます。特に、市内で最も標高の高い安達太良山は、市内各地から見ることでできるシンボリックな山となっています。
- 平坦地には広く田園が広がっています。水利が悪く不毛の地といわれた安積原野において、猪苗代湖からの水を引いた安積疏水*の開さくにより大きな発展が始まった本市にとって、市街地の周辺に広がる農地は原風景でもあり、背景となる奥羽山脈や阿武隈高地などの山々とあわせて美しい景観を形成しています。

【良好な水辺地】

- 本市には、猪苗代湖のほか、多数の農業用ため池、五十鈴湖、酒蓋池、荒池、五百淵といった公園化された池沼などの水辺があり、これらは景観を特徴づける要素となっています。
- 河川は、阿武隈川や逢瀬川などの大小様々なものが流れています。阿武隈川の河川敷では日出山水辺の小楽校*やサイクリングロードなどが整備され、レクリエーションや環境学習のための親水空間*となっています。また、阿武隈川の旧河道である徳定川（通称、古川池）は、ショートカット工事により現在の三日月湖（馬蹄形水路）となっており、貯留施設としての機能も有しています。
- こうした水辺空間は、都市生活における憩い・うるおいの場となっているほか、動植物の貴重な生息空間にもなっています。
- 歴史的にも水と密接なつながりをもつ本市では、水路と植栽を配置した石畳の「フロンティア通り」、豊かな花・緑・水をテーマとした「21世紀記念公園 麓山の杜」、雨水排水路の上部にせせらぎ水路を復活させた「せせらぎこみち」など、現在においても水を守り、水を生かすまちづくりの風土を継承しています。

布引高原のヒマワリ



安積アルプスと田園風景



写真：郡山市観光協会

麓山公園



猪苗代湖



4. 特徴的な緑や景観、施設

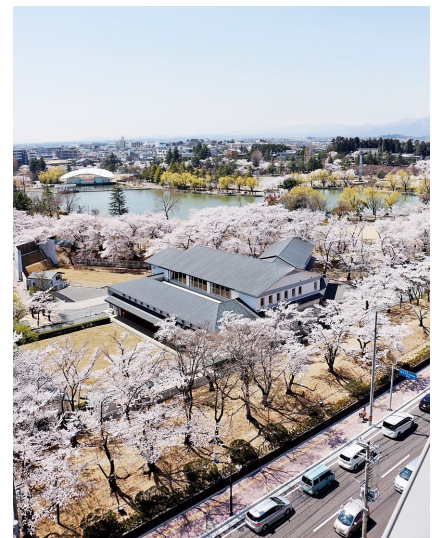
【伝統的、歴史的風土を代表する緑】

- 俳人・松尾芭蕉が「花かつみ」を求めて歩いたと伝えられる奥州街道には、街道の面影を残す松並木があります。また、松尾芭蕉が探し、見つけることのできなかつた「花かつみ」には諸説があり幻の花とされていますが、地元では「ヒメシャガ」が「花かつみ」とされ、本市では、1974年（S49）に市制50周年を記念して「ハナカツミ（ヒメシャガ）」を市の花としました。
- 奥州街道と並び本市を代表する街道である白河街道では、市内に赤津宿・福良宿・三代宿の3つの宿場がありました。三代の一里塚（市指定史跡）のほか、茅葺屋根や土蔵などの伝統的なまち並みが残っており、2019年（R元）には文化庁選定「歴史の道百選*」に選定されています。
- 市街地のほぼ中央に位置する開成山公園は、本市のシンボルともいえる公園であり、桜の名所ともなっています。周辺には、市役所・総合体育館・郡山女子大学・開成館などがあります。また、開成山公園に隣接する旧豊田貯水池は、360年以上にわたりため池や市民の水瓶として利用されてきた姿を今に伝えています。
- 「開成」は、開物成務（人々の知識を開発し、事業を完成させること）の意であり、開成山公園一帯は、安積開拓にみられる開拓者精神を受け継ぎながら、現在においては本市の行政・文化・教育・スポーツの中心となっています。
- 市北西部の熱海地域は、郡山の奥座敷として磐梯熱海温泉を有する観光地となっています。開湯は約800年前で、奥州合戦後に領主となった源頼朝の家臣である伊東祐長（すけなが）の出身地が伊豆であることから、故郷を偲びこの地を熱海と名付けたといわれています。五百川に沿って旅館が建ち並ぶとともに、裏山には大ケヤキの群生林があり、ウォーキングを楽しむことのできるケヤキの森散策路が整備されています。
- 温泉街の近くには、磐梯熱海スポーツパークや郡山ユラックス熱海、磐梯熱海アイスアリーナといった多くのスポーツ施設があり、自然と歴史、スポーツ・リラクゼーションを楽しむことのできる拠点となっています。

市の花 ハナカツミ



開成山公園の桜



ケヤキの森散策路



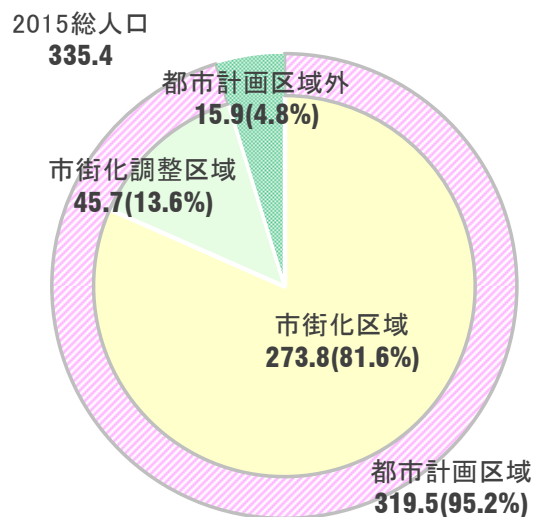
写真：郡山市観光協会)

2-3 社会的条件

1.人口

- 本市の人口は、国勢調査ベースでは2005年（H17）の338.8千人をピークとして緩やかな減少傾向にあり、2015年（H27）現在で335.4千人となっています。
- 総人口の95.2%が都市計画区域*内、4.8%が都市計画区域外に居住しており、市街化区域内*人口は273.8千人で81.6%を占めています。
- 全国的に人口減少・少子高齢化が進むなか、本市でも同様の傾向が進んでおり、2040年（R22）には265.4千人となる見込みです。また、2040年（R22）には年少人口の割合が10%を下回る一方で、老年人口の割合が約40%に達するなど、少子高齢化が一層顕著になる見込みです。

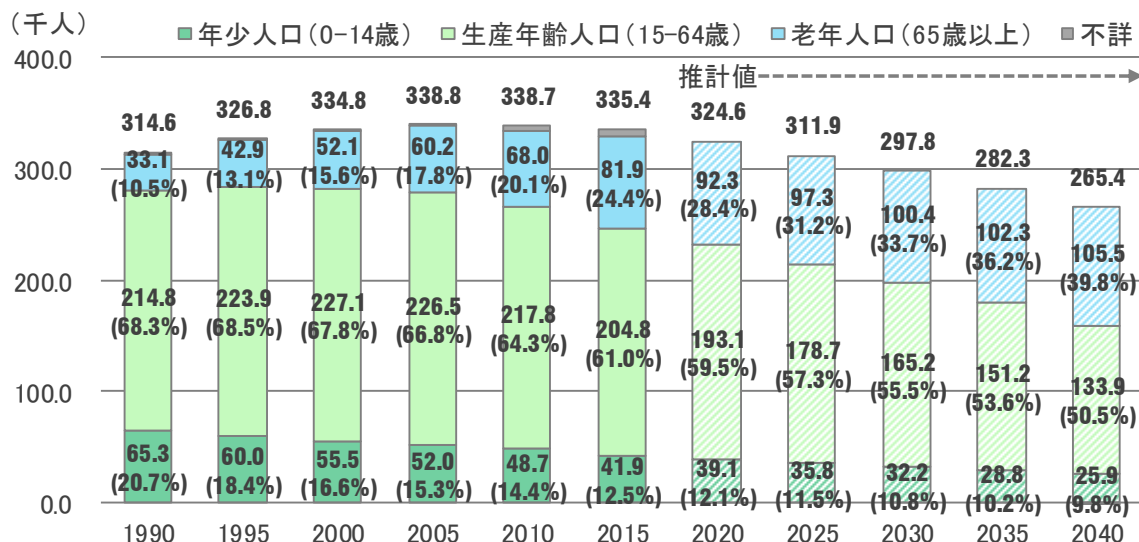
◆人口（都市計画区域内外）



単位：千人

出典：都市計画現況調査

◆人口推移と将来予測



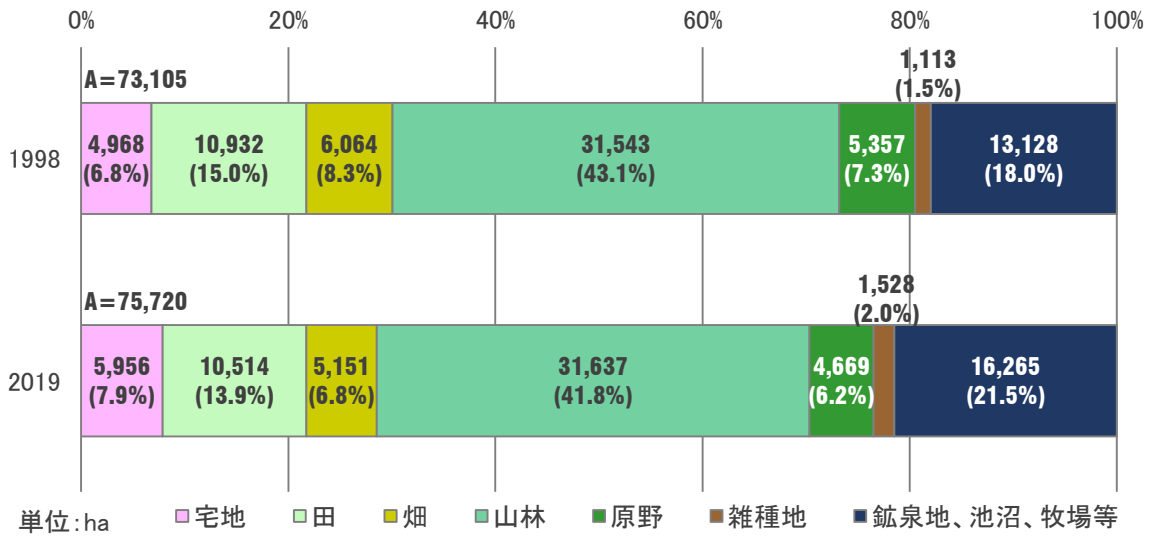
※ 2015年までは実績値、2020年以降は推計値を示す。推計値は、国立社会保障・人口問題研究所の平成30（2018）年推計に準拠して求めた推計人口である。

出典：国勢調査、郡山市人口ビジョン（2020改訂版）

2.緑地・緑被

- 本市の土地利用は、山林、原野といった自然及び田、畑の二次的自然が約70%を占めています。
- 行政区域が変更しているため一概に比較はできないものの、1998年（H10）と2019年（H31）の土地利用構成比をみると、宅地が増加しているのに対して、田、畑、原野といった自然環境が減少しています。

◆地目別面積の変化



※ 本市の行政区域面積は、猪苗代湖の境界確定による変更（1999年10月1日）、国土地理院面積測定による変更（2018年10月1日）を経て、現在の75,720haとなっている。

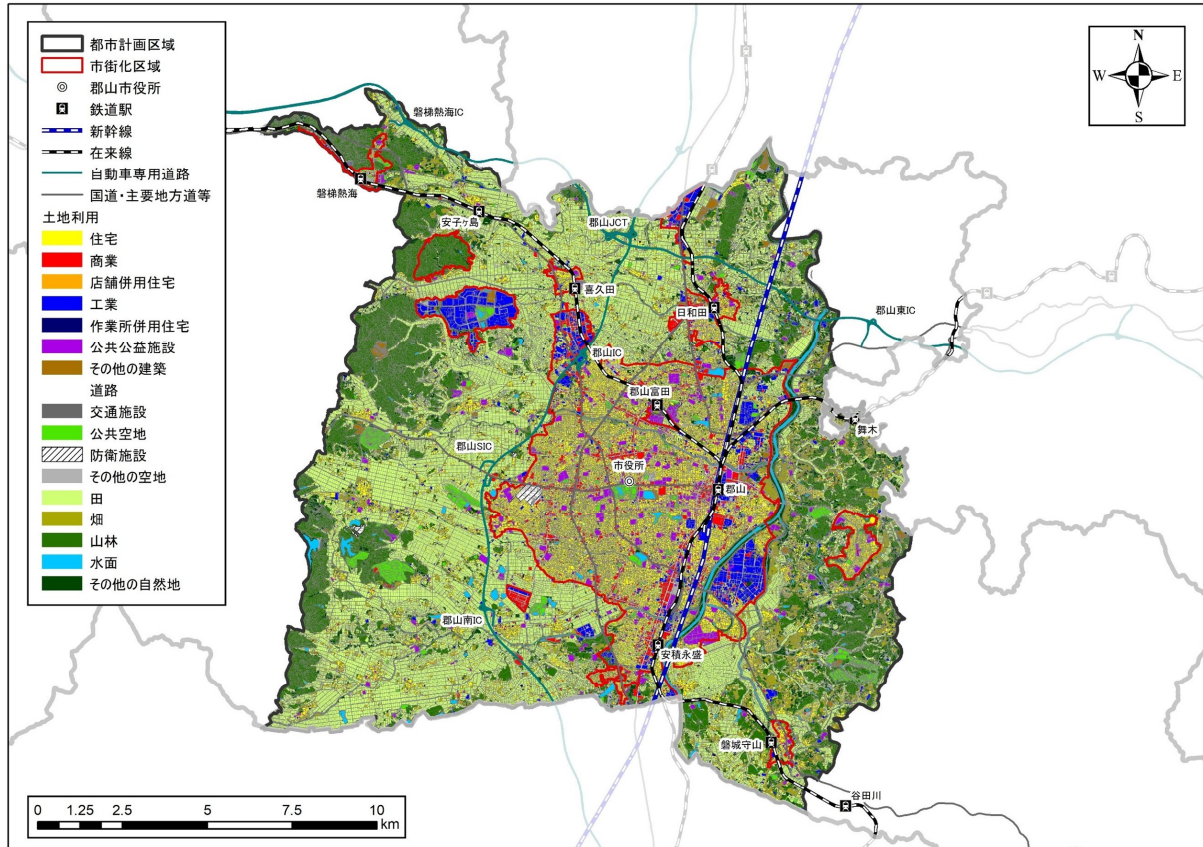
※ 「鉱泉地、池沼、牧場等」の増加は、猪苗代湖の境界確定による行政区域面積の増加による。

出典：郡山市統計書（令和元年版）

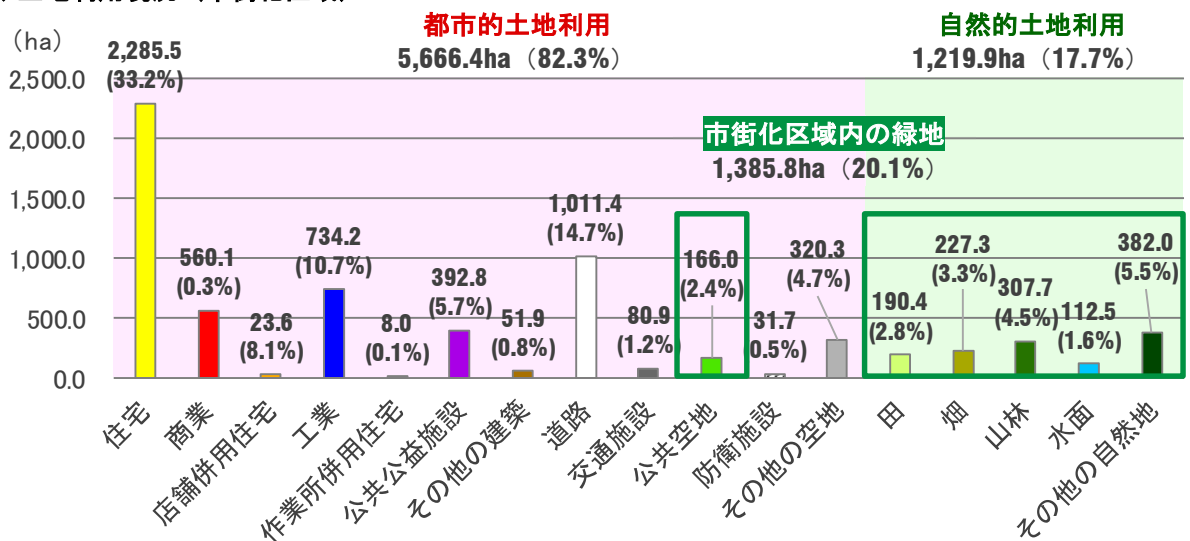
2. 緑地・緑被

- 本市の都市計画区域*では区域区分*が適用されており、制度の主旨を踏まえ、市街化調整区域*では田や畑、山林などの自然環境が保全されています。
- 市街化区域においては、17.7%が自然的土地利用となっています。自然的土地利用に公共空地（公園など）を加えた土地を「緑地」と捉えた場合、市街化区域の緑地率は20.1%となります。

◆土地利用現況（都市計画区域）



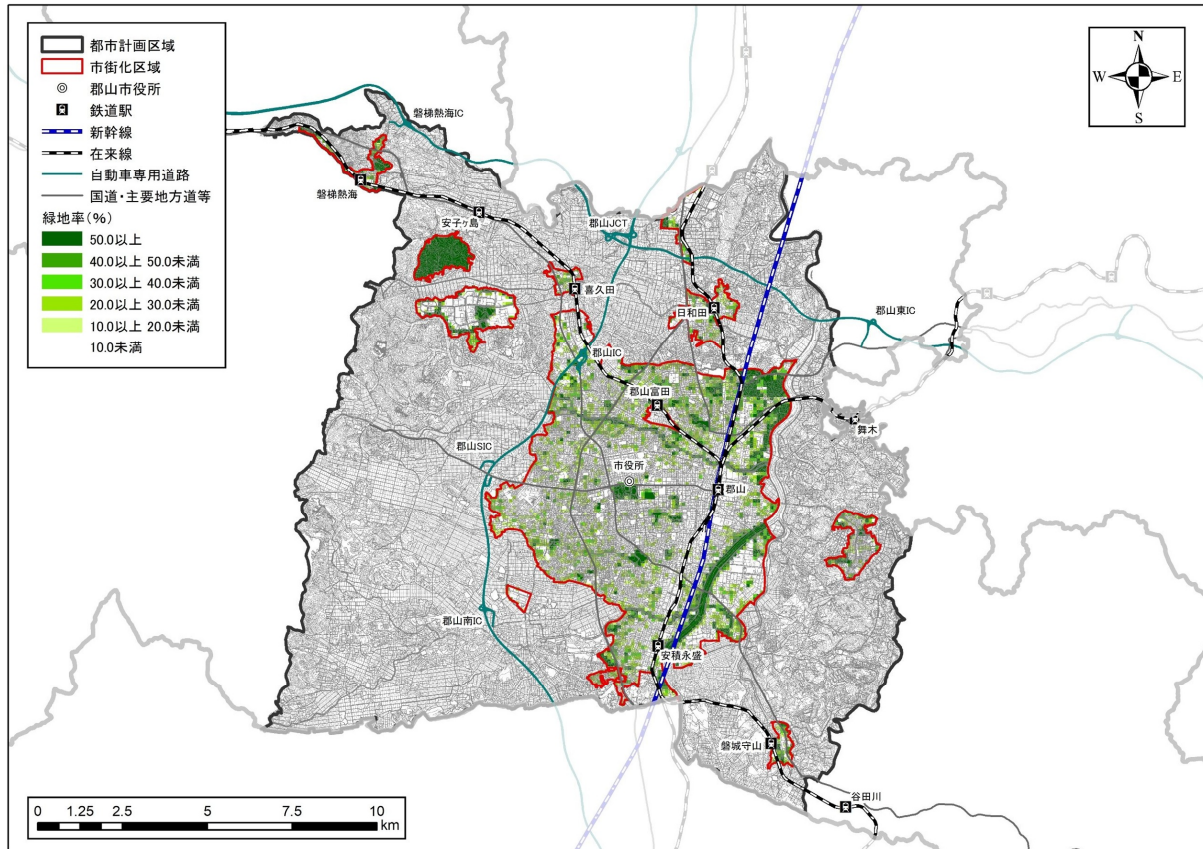
◆土地利用現況（市街化区域）



出典：都市計画基礎調査（2018年）

2.緑地・緑被

◆緑地率（市街化区域）



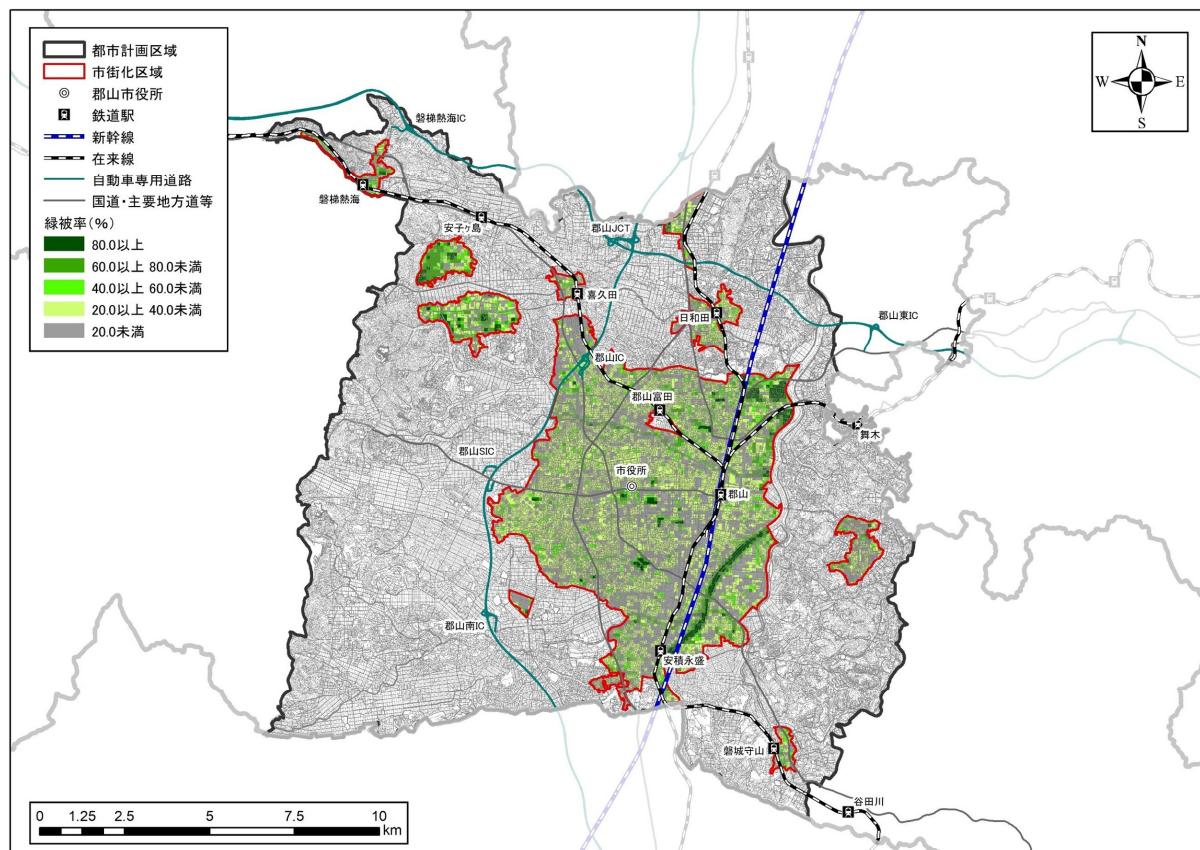
※ 都市計画基礎調査の土地利用用途区分のうち、「公共空地」「田」「畑」「山林」「水面」「その他の自然地」を緑地とし、100m×100mのメッシュ（1.0ha）ごとにその割合を表示している。

出典：都市計画基礎調査（2018年）

2. 緑地・緑被

- 市街地の緑被率は20.6%となっています。
- 市街地の緑を「緑地」で捉えた場合、その分布は農地や河川・池沼、都市公園などに限定されますが（P.23参照）、「緑被」で捉えた場合には市街地全体で一定の分布が確認されます。

◆緑被率（市街化区域）



※ 航空写真（デジタルオルソデータ）から樹木や草地、農地などの緑で覆われた箇所や河川などの水面を緑被地として抽出し、100m×100mのメッシュ（1.0ha）ごとにその割合を表示している。

※ 緑被地は航空写真の画像解析による手法で抽出しているため、一定程度の誤差が含まれる。

出典：平成31年度デジタルオルソデータ

「緑地」と「緑被」の違い

- 「緑地」とは、主に農地や公園などの土地、「緑被」は樹木や芝、草花などの植物によって覆われた部分のことで、緑の捉え方に違いがある。
- 例えば…
 - ▶工場の場合、その敷地は工業用地であり「緑地」ではないが、敷地内の緩衝緑地帯などは「緑被」となる。
 - ▶公園の場合、その敷地は「緑地」となるが、公園内のアスファルト舗装部は緑被ではなく、樹木や花壇などが「緑被」となる。

3.公園

(1) 都市公園

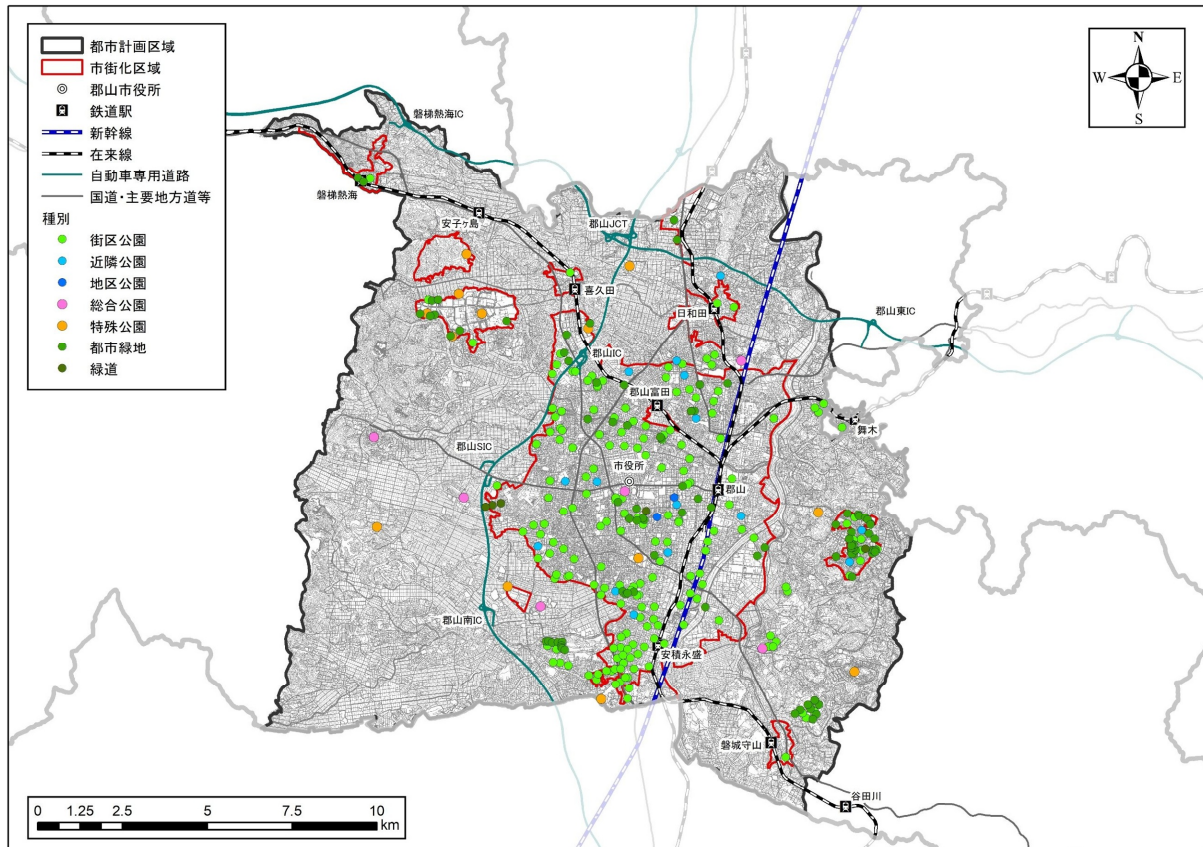
- 本市の都市公園は、2020年（R2）現在で320箇所、340.2haとなっています。
- 当初の緑の基本計画策定時と比較すると、約20年間で100箇所（45.5%）、76.8ha（29.2%）の増加となっています。
- 約20年間の人口増加は、行政区域1.7千人（0.5%）、都市計画区域* 13.8千人（4.5%）、市街化区域* 20.7千人（8.2%）となっていますが、都市公園の面積増加率はそれ以上であり、一人あたり面積は、行政区域10.2㎡、都市計画区域* 10.6㎡、市街化区域* 6.0㎡まで増加しています。
- 郡山市都市公園条例では、「市の区域内的の公園の住民1人当たりの敷地面積の標準は10平方メートル以上とし、市街地の公園の当該市街地の住民1人当たりの敷地面積の標準は5平方メートル以上とする」を基準としており、約20年間で目標水準を達成したことになります。

郡山市都市公園条例

（住民1人当たりの公園の敷地面積の標準）

第2条の2 市の区域内的の公園の住民1人当たりの敷地面積の標準は10平方メートル以上とし、市街地の公園の当該市街地の住民1人当たりの敷地面積の標準は5平方メートル以上とする。

◆都市公園の分布



出典：郡山市（2020年3月31日現在）

3.公園

◆都市公園の箇所数

単位:箇所

種類	種別	1997		2020		増加数 (下段:増加率)	
		都市計画 区域	市街化 区域	都市計画 区域	市街化 区域	都市計画 区域	市街化 区域
住区基幹公園	街区公園	148	137	188	164	40 (27.0%)	27 (19.7%)
	近隣公園	10	9	15	13	5 (50.0%)	4 (44.4%)
	地区公園	1	1	2	2	1 (100.0%)	1 (100.0%)
都市基幹公園	総合公園	4	1	6	1	2 (50.0%)	0 (0.0%)
緩衝緑地等	特殊公園	9	0	13	8	4 (44.4%)	8 (皆増)
	都市緑地	43	43	91	74	48 (111.6%)	31 (72.1%)
	緑道	5	5	5	4	0 (0.0%)	-1 (-20.0%)
都市公園計		220	196	320	266	100 (45.5%)	70 (35.7%)

◆都市公園の面積

単位:ha

種類	種別	1997		2020		増加数 (下段:増加率)	
		都市計画 区域	市街化 区域	都市計画 区域	市街化 区域	都市計画 区域	市街化 区域
住区基幹公園	街区公園	29.8	28.4	39.0	34.9	9.2 (31.0%)	6.5 (23.0%)
	近隣公園	18.4	15.6	26.3	22.8	7.9 (42.9%)	7.2 (46.2%)
	地区公園	6.7	6.7	9.5	9.5	2.8 (41.8%)	2.8 (41.8%)
都市基幹公園	総合公園	84.0	30.3	104.8	30.3	20.8 (24.8%)	0.0 (0.0%)
緩衝緑地等	特殊公園	98.8	11.7	116.3	29.2	17.5 (17.7%)	17.5 (149.1%)
	都市緑地	23.2	23.2	41.6	35.1	18.4 (79.4%)	11.9 (51.2%)
	緑道	2.5	2.5	2.8	2.5	0.3 (10.4%)	0.0 (1.2%)
計		263.4	118.4	340.2	164.3	76.8 (29.2%)	45.9 (38.8%)

行政区域	人口(千人)	330.3 ^{※1}	332.0 ^{※1}	1.7 (0.5%)
	一人あたり 面積(m ² /人)	8.0	10.2	2.3 (28.5%)
都市計画区域	人口(千人)	305.7	319.5 ^{※2}	13.8 (4.5%)
	一人あたり 面積(m ² /人)	8.6	10.6	2.0 (23.6%)
市街化区域	人口(千人)	253.1	273.8	20.7 (8.2%)
	一人あたり 面積(m ² /人)	4.7	6.0	1.3 (28.3%)

※1 それぞれ1997年10月1日、2019年10月1日現在の人口である。

※2 2015年国勢調査をベースとした人口である。

出典:郡山市(2020年3月31日現在)、郡山市統計書(令和元年版)、都市計画現況調査

3.公園

(2) その他の公園

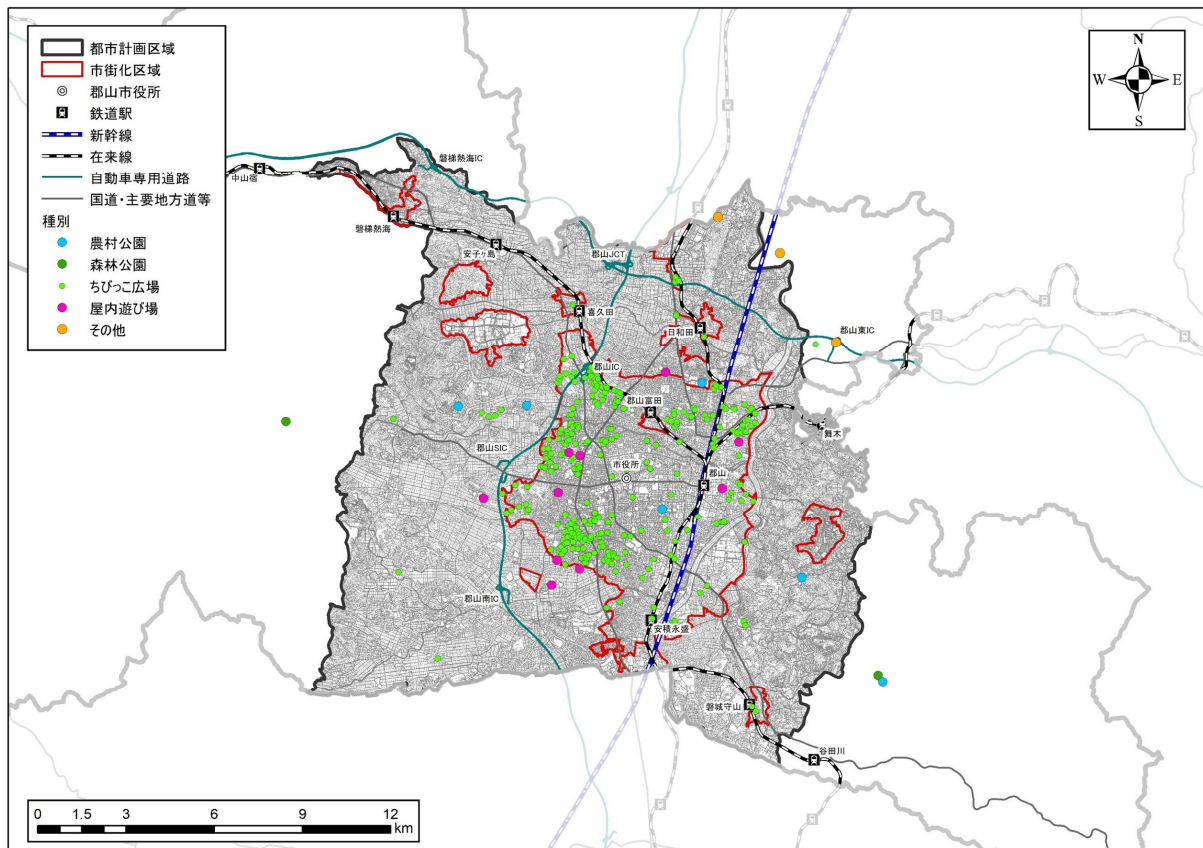
○都市公園以外の公園としては、農村公園が6箇所、森林公園が2箇所、ちびっ子広場が301箇所、その他公園が3箇所あります。

- ・農村公園…6箇所（荒池農村公園、山ノ井農村公園、鹿嶋池農村公園、宝沢沼農村公園、金沢農村公園、赤沼農村公園）
- ・森林公園…2箇所（高篠山森林公園、東部森林公園）
- ・その他公園…3箇所（木村公園、中原広場公園、高倉公園）

○このほか、市内には、福島県の屋内遊び場確保事業などを活用して整備した施設が10箇所あります。

- ・郡山市が屋内遊び場確保事業を活用して整備
 - …1箇所（ペップキッズこおりやま）
- ・民間団体が屋内遊び場確保事業を活用して整備
 - …6箇所（キッズスタジオコスタ、なかよしキッズ柴宮、はなさと保育園ホール、プチママンキッズひろば、ユーパロつつみ分園、ユーパロ室ノ木保育園）
- ・郡山市が独自に整備（いずれも都市公園内）
 - …3箇所（カルチャーパーク屋内子どもの遊び場、大槻公園子どもの遊び場、八山田こども公園子どもの遊び場）

◆その他の公園の分布



出典：郡山市（2020年3月31日現在）、郡山市農村公園条例、郡山市森林公園条例、福島県屋内遊び場一覧

4. 自然災害

- 本市では、2011年（H23）の東日本大震災や2019年（R元）の令和元年東日本台風による浸水被害などで甚大な被害に見舞われています。
- 特に、近年は従来の想定を大きく上回る自然災害が多発し、異常気象に伴う台風の大型化や集中豪雨による浸水被害が懸念されています。

◆近年の主な災害

発生日月	災害	被災状況
2002年(H14) 7月10日・11日	台風6号による 集中豪雨	<ul style="list-style-type: none"> ・総雨量190mm ・死者0名 ・全壊0世帯、半壊0世帯、床上浸水144世帯、床下浸水165世帯 ・最高水位：阿武隈川8.35m、谷田川5.49m、逢瀬川3.52m ・避難所開設44施設、最大避難者2,067人 ・被害総額約24億円
2011年(H23) 3月11日	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6弱 ・死者(直接死)1名 ・住宅被害：全壊2,433棟、半壊21,325棟、一部損壊33,772棟 ・非住宅被害：全壊325棟、半壊1,101棟、一部損壊4,695棟 ・避難所開設105施設、最大避難者10,013人 ・その他、建物・ライフラインなどに多くの被害 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
2011年(H23) 9月21日	台風15号による 豪雨	<ul style="list-style-type: none"> ・総雨量312mm ・死者0名 ・全壊23世帯、半壊1,409世帯、床上浸水1,343世帯、床下浸水132世帯 ・最高水位：阿武隈川9.25m、谷田川6.47m、逢瀬川3.60m ・避難所開設32施設、最大避難者1,783人 ・被害総額約43億円
2019年(R元) 10月12日	令和元年東日本台風(台風19号) ※2019年(R元) 12月26日10時00分現在	<ul style="list-style-type: none"> ・総降水量(10月12日00:00～13日04:00)：芳賀地域公民館281.5mm、谷田川小学校274.5mm、中田ふれあいセンター284.5mm ・死者6名・負傷者1名 ・全壊1,415件、大規模半壊2,053件、半壊5,010件、床上浸水6,671件、床下浸水890件 ・最高水位：阿武隈川10.0m、谷田川6.4m、逢瀬川4.0m、笹原川5.0m ・企業被害：450億2,280万円(2020年1月20日13:30現在) ・農業被害：25億1,622万7,000円(2020年2月17日14:00現在) <div style="display: flex; justify-content: space-between;">  <div style="font-size: small;"> <p>写真：令和元年10月12日出水台風第19号に伴う降雨による出水概要第4報(国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所)</p> </div> </div>

出典：郡山市国土強靱化地域計画

2-4 市民意向

1. 実施要領

- 本計画の改定にあたり、緑に関する市民意向を確認するため、ネットモニター360名を対象にアンケート形式の調査を実施しました。
- 実施要領は、下記のとおりです。

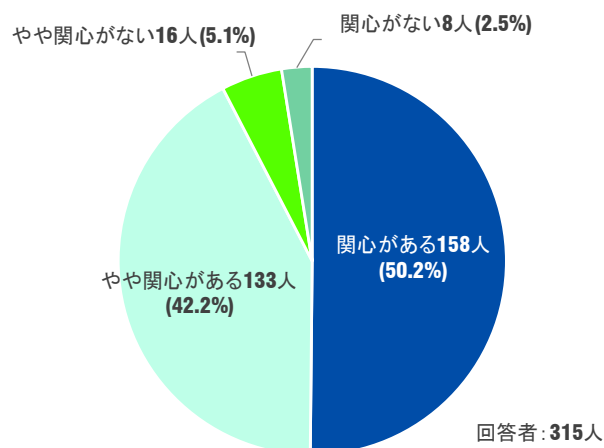
◆市民意向調査の実施要領・結果概要

調査期間	2020年(R2)9月4日(金)～9月13日(日)(10日間)									
回答方法	専用ウェブサイトからの回答									
対象モニター数	360名(男性172名 女性188名)									
回答者数	315名									
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
	男性	4	5	15	31	30	16	40	8	149
	女性	7	10	39	54	38	15	2	1	166
	合計	11	15	54	85	68	31	42	9	315
回答率	87.5%									

2. 主な調査結果

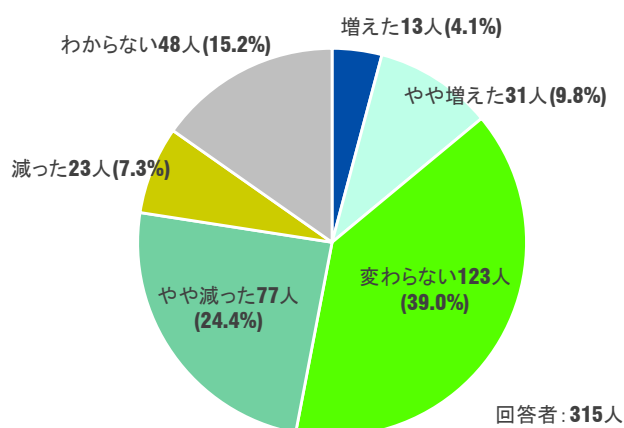
- 主な調査結果は、下記のとおりです。
- ※詳細は、別途『まちづくりネットモニター「郡山市緑の基本計画について」』にて整理しています。

▶緑に関心はありますか？(1つ選択)



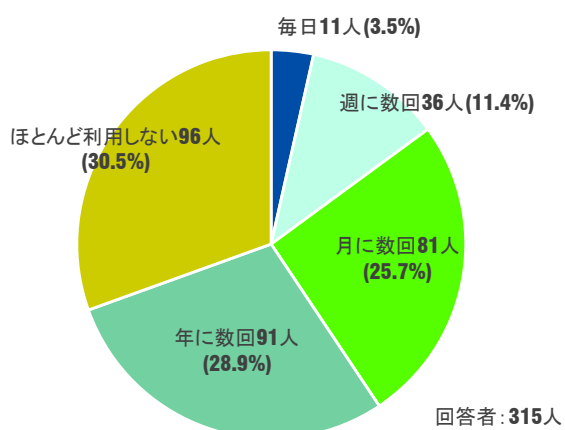
- 「関心がある」「やや関心がある」の合計が90%を超えており、関心は非常に高いといえます。
- 一方で、一部には「やや関心がない」「関心がない」とする回答もあります。
- 緑のまちづくりを進めるためには、関心のある層を取り込みつつ、無関心の層への意識啓発が必要となります。

▶10年前と比べて、郡山市の緑の量はどう変わりましたか？（1つ選択）



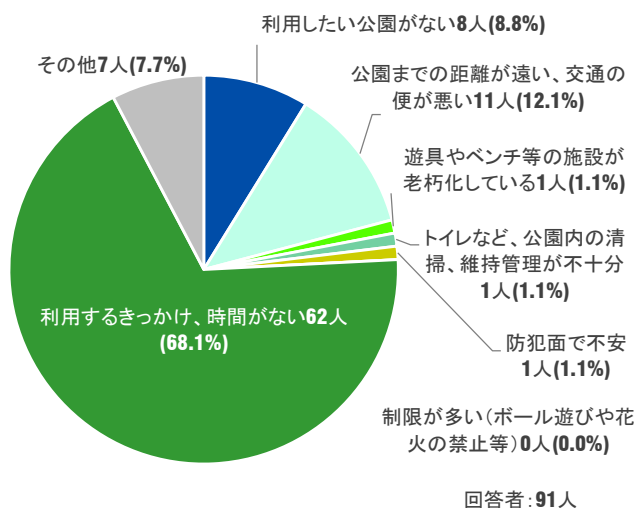
- 「変わらない」が39.0%と最も多くなっています。
- 「減った」「やや減った」の合計が31.7%に対して、「増えた」、「やや増えた」の合計は13.9%にとどまっています。
- 本市では公園・緑地の整備を進めてきた一方で、市街化の進展に伴い農地が減少してきたことなどが影響していると考えられます。

▶どの程度公園を利用しますか？（1つ選択）



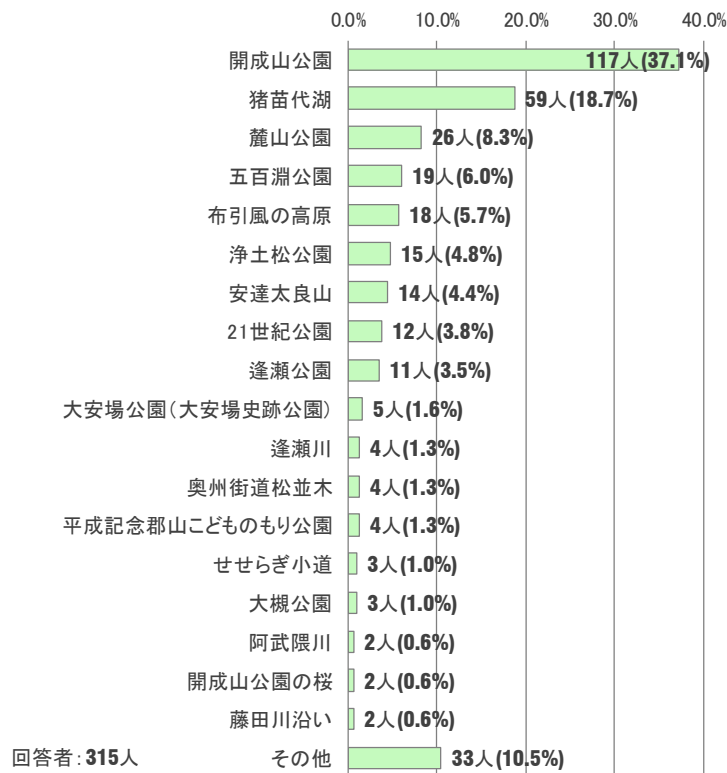
- 「ほとんど利用しない」が30.5%と最も多く、次いで「年に数回」が28.9%、「月に数回」が25.7%となっており、利用頻度の少ない回答が多くなっています。
- 「週に数回」は11.4%、「毎日」は3.5%にとどまり、日常的に公園を利用する回答は少ない状況です。

▶「ほとんど利用しない」を選択した方に伺います。利用しない理由は何ですか？（1つ選択）



- 利用しない理由は、「利用するきっかけ、時間がない」が68.1%と最も多く、次いで「公園までの距離が遠い、交通の便が悪い」が12.1%、「利用したい公園がない」が8.8%となっています。
- 交通の便や利用したいと思われる環境の整備について検討していく必要があります。

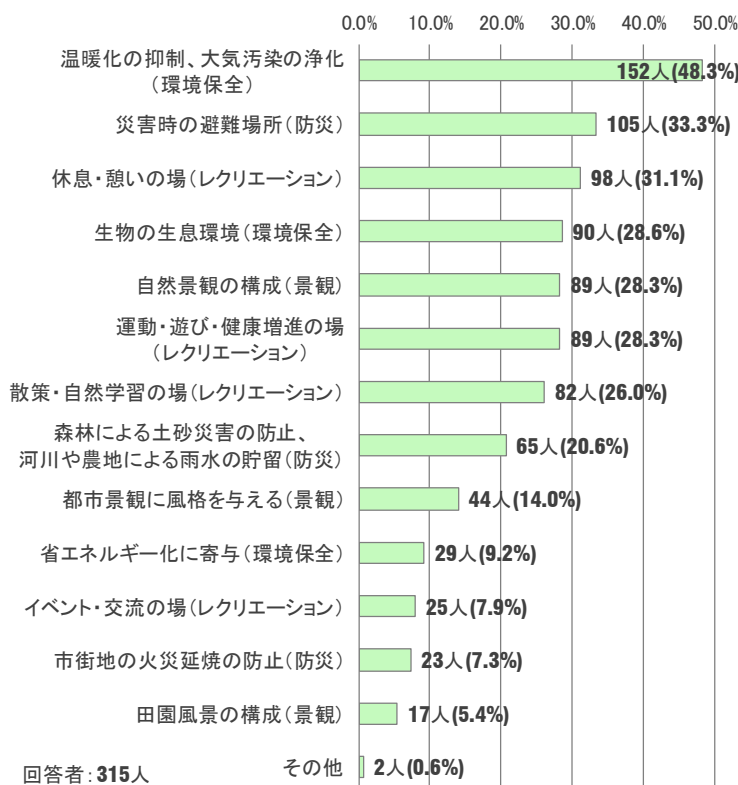
▶後世に残したい、誇りに思う緑はどこですか？（自由記述）



○「開成山公園」が37.1%と最も多く、次いで「猪苗代湖」が18.7%、「麓山公園」が8.3%、「五百淵公園」が6.0%、「布引風の高原」が5.7%となっています。

○「開成山公園」は3人に1人以上が回答しており、本市の公園・緑地のシンボルとして意識されていることがうかがえます。

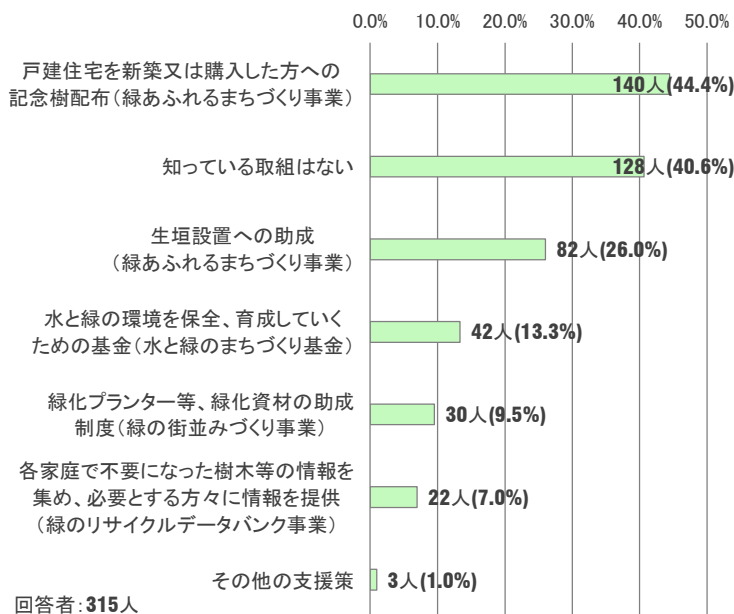
▶郡山市の緑（グリーンインフラ含む）について、どのような機能が必要と考えますか？（3つまで選択可）



○「温暖化の抑制、大気汚染の浄化（環境保全）」が48.3%と最も多く、次いで「災害時の避難場所（防災）」が33.3%、「休息・憩いの場（レクリエーション）」が31.1%となっています。

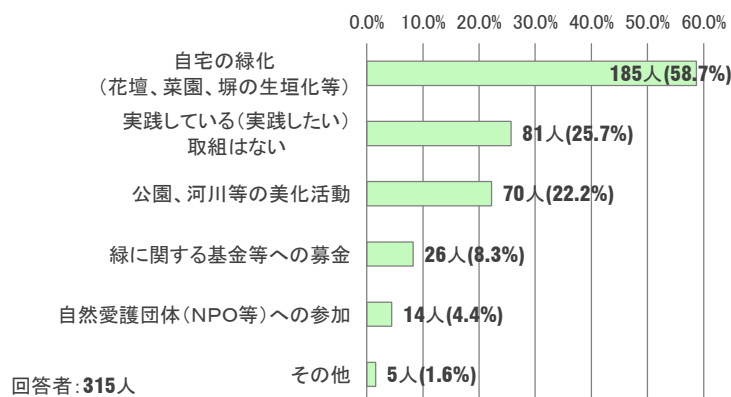
○緑の機能として環境保全やレクリエーションは広く認識されているなか、防災面での機能を望む背景には、東日本大震災や令和元年東日本台風での被災があると考えられます。

▶ 郡山市では、次のような緑化支援策を実施しています。このうち、あなたをご存知の支援策はありますか？（複数選択可）



- 「戸建住宅を新築又は購入した方への記念樹配布」が44.4%と最も多く、次いで「知っている取組はない」が40.6%、「生垣設置への助成」が26.0%となっています。
- 約40%が支援策を知らない状況であり、身近な緑の確保のためには、既存支援策の周知、活用拡大を図る必要があります。

▶ 現在あなたが実践している（または、今後実践したい）緑に関する取り組みはありますか？（複数選択可）



- 「自宅の緑化（花壇、菜園、塀の生垣化等）」が58.7%と最も多く、次いで「実践している（実践したい）取組はない」25.7%、「公園、河川等の美化活動」が22.2%となっています。
- 自宅の緑化に取り組む回答は多いですが、市民共有の財産として公共空間における緑の維持管理について理解を求めていく必要があります。

2-5 緑の現況・評価と課題

本市の緑について、上位関連計画での位置づけや緑地・緑化の現況、市民意向より、4機能の視点（環境保全系統・防災系統・レクリエーション系統・景観系統）で現況を評価し、課題を整理します。

なお、上位関連計画での位置づけや緑の詳細については、巻末の「資料編」にて整理しています。

緑に関する法改正・社会潮流

◆都市緑地法の改正（2004年）

- 民間による市民緑地整備を促す制度の創設
- 緑の担い手に民間主体を指定する制度の拡充

◆都市公園法の改正（2004年）

- 民間による公共還元型の収益施設の設置管理制度の創設
- 都市公園で保育所などを含む社会福祉施設の設置を可能とする制度の創設

◆グリーンインフラの取組の推進（2019年）

- 国土交通省により「グリーンインフラ推進戦略」がとりまとめられ、グリーンインフラ*推進のための支援制度の充実や環境整備などが加速
- 自然環境が有する多様な機能を賢く利用するグリーンインフラ*を通じた持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり

◆生物多様性の確保

- 都市の生物多様性確保に必要な生物の生息・生育地となる緑地の保全や創出、ネットワーク化の推進

◆自然災害などへの対応

- 避難地や避難路、復旧・復興の拠点となる防災公園の整備
- 火災の延焼遅延・防止などに資する緑・オープンスペースの確保
- 気候変動により激甚化する豪雨災害に対するグリーンインフラ*の活用推進

◆SDGsの達成に向けた取組の推進

- 省エネルギー化や再生可能エネルギー*の普及、防災・気候変動への対策、循環型社会の形成
- 生物多様性、森林、海洋などの環境保全の推進

◆緑とオープンスペースを生かした活力の創出

- 国内外から観光客を迎え入れるうらおいのある都市空間の形成
- 地域の資源や文化と一体となった都市公園の活用による観光の振興、賑わいの創出

◆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行を契機とした生活様式の変化（2019年～）

- テレワーク（在宅勤務）*に伴う運動不足の解消としての軽スポーツニーズ拡大
- リモートワーク（遠隔地勤務）*・ワーケーション（ワーク＋バケーション）*の拡大に伴う自然豊かでゆとりのある地方への移住・二地域居住*などへの注目

◆新型コロナ危機を契機とした新しいまちづくりの方向性の公表（2020年）

- オープンスペースの今後のあり方として、グリーンインフラ*としての効果を戦略的に高める、まちに存在する様々な緑とオープンスペースについて地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用
- 災害・感染症などのリスクに対応する、いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備の推進

緑に関する上位関連計画の位置づけ（主要な内容）

◆あすまちこおりやま郡山市まちづくり基本指針【公共計画編】

○環境にやさしく自然豊かな、住んでいてよかったなと思えるまち／豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち

◆郡山市SDGs未来都市計画

○全ての世代が健康で安心して暮らせる環境づくり／地球温暖化への対応と環境保全及び環境負荷低減の取り組み

◆郡山市人口ビジョン・総合戦略（2020改訂版）

○ひとの縁を結び、まちを元気にする交流の活性化／一度都会に出ても戻って暮らしたくなる魅力的な地域づくり

◆郡山市都市計画マスタープラン2015

○市街地を東西につなぐ「歴史と緑の生活文化軸」の形成／市街地と森林・田園との環境共生

◆郡山市立地適正化計画

○快適で健康的な都市空間の充実／回遊性を高める賑わい空間の創出／効率的・効果的な基盤整備及び更新

◆郡山市景観づくり基本計画

○「水」と「緑」と「まち」が調和する景観づくり（つくる魅せる愉しむ／そだてる愛し参加する／まもる生かし伝える）

郡山市の緑の現況・評価

環境保全系統

- 西は奥羽山脈、東は阿武隈高地に接しており、北には奥羽山脈の秀峰・安達太良山を望みます。
- 市街地の周辺に広がる田園は、本市の原風景となっているほか、水辺環境としては、阿武隈川や逢瀬川、猪苗代湖、多数の農業用ため池、酒蓋池や五十鈴湖、五百淵といった公園化された池沼などがあります。
- これらは貴重な自然資源であり、本市の緑の骨格を形成しています。また、これらの優れた自然環境は、多様な生物の生息・生育地となっています。しかし、市全体としては、田、畑、原野といった自然環境が減少しています。
- 安達太良山や猪苗代湖、浄土松、奥州街道松並木などのとりわけ貴重な緑については、関連法令や条例の指定により保全されています。
- 市内には4箇所の緑化協定や5箇所の市民菜園があるなど、市民や地域が主体となった緑の保全・活用が行われています。
- 市街地の緑被率は20.6%であり、1/5程度が緑に覆われていますが、10年前と比較して緑が減ったとする市民意見が多くなっています。
- 環境教育資料集「郡山市のかんきょう」による環境学習など、環境保全意識の啓発を図っています。
- 都市におけるグリーンインフラ*の機能として、温暖化の抑制、大気汚染の浄化などの環境保全の面で緑の機能を重視する市民意見が多くなっています。

防災系統

- 奥羽山脈の山地では保安林の指定が多く、水源かん養や山地災害防止の上で重要な林地となっています。
- 山間部を中心に土砂災害警戒区域*が分布しており、磐梯熱海温泉の周辺では土砂災害特別警戒区域*が指定されているほか、市街地の一部地域でも土砂災害警戒区域*の指定があります。
- 都市公園は災害時における避難地や防災支援活動スペースとしての機能を有しており、都市公園の約半数は指定緊急避難場所*となっています。
- 阿武隈川の旧河道である徳定川（通称：古川池）は、貯留施設としての機能を有しているほか、市内に点在するため池や公園化された池沼、市街地周辺の田園は、一時的に雨水を溜める洪水調整機能を果たしています。
- 都市公園やちびっこ広場などのオープンスペースや緑道、街路樹は、火災の延焼防止・遅延機能が期待できます。
- 都市におけるグリーンインフラ*の機能として、環境保全機能に次いで災害時の避難場所としての機能を重視する市民意見が多くなっています。

レクリエーション系統

- 阿武隈川の河川敷では、日出山水辺の小楽校*やサイクリングロードなどの施設が整備され、レクリエーションや環境学習のための親水空間*となっています。
- 磐梯熱海温泉の裏山には大ケヤキの群生林があり、ウォーキングを楽しむことができるほか、近くには多くのスポーツ施設があり、自然と歴史、スポーツ・リラクゼーションを楽しむことのできる拠点となっています。
- 都市公園は、320箇所、340.2haであり、都市計画区域*では10.6㎡/人、市街化区域*では6.0㎡/人となっており、郡山市都市公園条例で定める水準を満たしています。一人あたり面積として量的には充足していますが、市街化区域*では身近な公園について、住区基幹公園のカバー率（面積ベース）が49.7%となっています。
- 都市公園の約半数が供用開始から30年以上が経過しています。遊具のある都市公園は203箇所（63.4%）であり、身近な都市公園（住区基幹公園）では設置率が高くなっています。
- 開成山公園は、本市のシンボルでもあり、周辺には市役所本庁舎・総合体育館・郡山女子大学・開成館・開成山大神宮などがあり、行政・文化・教育・スポーツの中心となっています。
- 日常的に公園を利用しない市民が利用のために望むこととしては、「駐車場が整備される、交通の便が良くなる」「民間が運営する施設（カフェ・レストラン等）が設置される」といった意見が多くなっています。
- 都市におけるグリーンインフラ*の機能として、「休息・憩いの場（レクリエーション）」を重視する市民意見が多いほか、公園や街路樹の適切な維持管理を必要とする意見も多くなっています。

景観系統

- ランドマークとなる安達太良山をはじめ、宇津峰山、蓬田岳などの森林景観や猪苗代湖の湖岸景観は、本市を代表する自然景観となっています。
- 市街地の周辺に広がる農地は、本市の原風景でもあり、背景となる奥羽山脈や阿武隈高地などの山々とあわせて美しい景観を形成しています。
- 奥州街道の松並木や白河街道沿いの宿場町は、歴史的・文化的景観を形成しています。
- 市街地においては、「フロンティア通り」や「せせらぎこみち」などの水を守り、水を生かすまちづくりにより、うるおいのある景観が形成されています。
- 市街地中心部には、水辺を生かした開成山公園や麓山公園などに加え、安積開拓の歴史を伝える開成館や安積開拓官舎、開成山大神宮、旧福島県尋常中学校本館などが点在しており、郡山駅前から開成館にかけては、本市の緑のシンボル軸が形成されています。
- さくら通りを中心に形成されるシンボル軸については、沿道ではロードサイド型の商業施設の立地により、統一感のある景観形成が阻害されている部分もあります。
- 後世に残したい、誇りに思う緑として、市街地内においては開成山公園や麓山公園、五百淵公園などの大規模公園を、自然環境としては猪苗代湖や布引風の高原をあげる意見が多くなっています。

郡山市の緑の課題

環境保全系統

- 【①減少しつつある自然環境の適切な整備・保全】本市の原風景ともいえる田園や原野は本市の輪郭をなす緑として、また、地球規模で進行する気候変動に対し温室効果ガス^{*}を吸収・固定する緑として、適切に整備・保全する必要があります。
- 【②人と自然が共生する環境の創出】本市は、持続可能な経済社会システムを実現する都市・地域づくりを目指すSDGs未来都市として、多様な関係機関と連携しながら、生態系が健全に維持され、人と自然との共生が確保された環境を創出していく必要があります。
- 【③グリーンインフラの戦略的な活用】森林や農地などをグリーンインフラ^{*}と捉え、その多面的機能を発揮し、良好な都市環境を形成していくことが求められており、そのためには緑の適切な維持管理とともに、その機能を戦略的に活用していく必要があります。
- 【④快適な都市環境の創出】都市化の進展などを背景とするヒートアイランド現象^{*}の緩和など、快適な都市環境を創出するために市街地の緑化を推進する必要があります。住宅地では、郡山市水と緑のまちづくり基金による生垣設置助成や緑の街並みづくり事業などの活用により、身近な緑を確保する必要があります。
- 【⑤エコロジカルネットワークの形成による生物多様性の保全】本市には、森林や農地のほか市街地においても複数の河川や公園化された池沼などの生物の生息・生育地が分布していることから、自然の恵みを持続的に享受していくため、これらを相互に結びつけることでエコロジカルネットワーク^{*}を形成していく必要があります。

防災系統

- 【⑥気候変動緩和対策としての森林整備・維持管理】大型台風や集中豪雨による土砂災害の脅威に対する国土保全、温室効果ガス^{*}である二酸化炭素の吸収・固定などの観点から、従来以上に森林を適切に維持管理していく必要があります。
- 【⑦公園における防災機能の強化】東日本大震災や令和元年東日本台風での教訓を踏まえ、市民の安全・安心を確保するため、周辺の人口規模や市街地状況などを勘案し、公園・緑地などにおける避難の場、火災の延焼防止、災害活動の拠点としての役割を再確認するとともに、その機能を発揮できるような取組を推進する必要があります。
- 【⑧計画的なため池の改修・補修及び活用】郡山地方では降水量が少なかったことを背景に、市内には多数のため池があり、これらは洪水調節や土砂流出の防止などの機能を有する一方で、豪雨や大地震で決壊すると下流域に大きな被害を及ぼすことから、計画的な点検及び改修・補修の必要があります。また、平時においては、親水空間^{*}として活用できるような検討も必要です。
- 【⑨大規模・激甚化する災害に対応するオープンスペースの確保】近年、集中豪雨や大型台風が頻発し、被害規模が大きくなるなか、グリーンインフラ^{*}の観点から洪水調整機能をもつレインガーデン^{*}や河川の決壊・越水時に遊水池としての機能を発揮する公園やオープンスペースの確保を図る必要があります。
- 【⑩感染症に配慮した避難先としての活用】新型コロナウイルス感染症（COVID-19）^{*}の拡大を背景に密を避ける避難方法として車中泊が増加しており、オープンスペースである都市公園などは車中泊避難先としての活用を検討する必要があります。

レクリエーション系統

- 【⑪高まる健康志向に応じた公園施設の整備】健康志向の高まりや新型コロナウイルス感染症（COVID-19）*の流行を契機としたテレワーク*・リモートワーク*の拡大に伴う運動不足の解消として、手軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる環境を整備していく必要があります。あわせて、環境学習の場、観光資源としても活用していく必要があります。
- 【⑫都市公園などを生かした賑わいの空間づくり】成熟社会を迎えた今日、都市公園などにおいては量の確保ではなく、ストック効果*の最大化に視点を切り替え、余暇活動や学習活動、健康づくり、カフェ・レストランの設置、イベント開催などの多様な使い方ができる空間として整備していく必要があります。
- 【⑬Park-PFIや指定管理者制度などの官民連携の強化】本市では、民間の資金やノウハウを生かした整備・改修や収益化を図るため、都市公園に指定管理者制度*を導入しているほか、Park-PFI*についても検討していますが、財政状況が厳しさを増すなか、適切な維持管理を図りつつ、ストック効果*を高めるため、その拡大を検討していく必要があります。
- 【⑭誰もが使いやすい公園環境の整備】公園・緑地などのオープンスペースは、遊び場、スポーツ・レクリエーションとしての機能など、多様な使い方を促すため、福祉や子育て、観光などの分野と連携しながら、利用者目線で誰もが使いやすい、憩いの場としての環境を整備する必要があります。
- 【⑮公園施設の更新・長寿命化、ストック再編】人口減少が進み、公園利用者の減少も見込まれるなかでは、市民ニーズや公園愛護協力会による維持管理への協力、郡山市立地適正化計画での居住促進区域*の位置づけなどを考慮した施設更新の優先度設定や長寿命化、ストック再編などを検討していく必要があります。

景観系統

- 【⑯歴史・文化を象徴する緑の継承】浄土松や奥州街道松並木、安積開拓を今に伝える開成山公園及びその周辺の貴重な緑は、本市の歴史や文化を後世に伝える貴重な緑の空間として整備を進める必要があります。
- 【⑰市民参加による自然環境の保全】農林業の衰退は優れた景観要素である森林や農地の荒廃にも繋がることから、農林業の振興を図るとともに、市民が農林業に親しむ機会を創出し、市民参加の活動を通じた保全の取組を拡大していく必要があります。
- 【⑱緑化を通じた統一感のあるまち並み形成】郡山駅から開成山公園にかけての中心市街地は、本市の玄関口であり本市の顔となるエリアとして、市民をはじめ、来訪者にとっても心地の良い都市空間とするため、緑化を通じて統一感のある景観形成を進める必要があります。
- 【⑲民有施設の緑化による視覚的な緑の確保】市街地では、まとまった緑地の確保が難しいことから、民間施設の緑化を促進しながら視覚的な緑を増やすことで、うるおい感やさわやかさ、やすらぎなどの心理的効果を向上させていく必要があります。
- 【⑳市民が主役の取組促進】本市では、公園愛護協力会や河川愛護団体などの協力を得ていますが、活動者の固定化や高齢化も進んでいることから、参加者の拡大・育成などにより、市民が主役の取組を促進していく必要があります。